

富澤赤黄男句碑

所在地 愛媛県越智郡朝倉村古谷甲三宛 竹林寺境内

海に沈んだ

碑陰

春の古代の

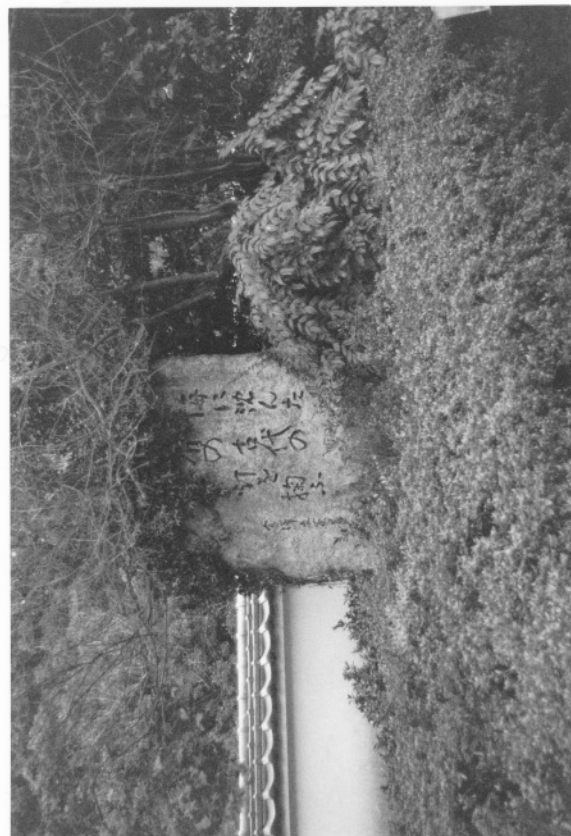
文字なし

灯を掬ふ

富澤赤黄男

略歴

富澤赤黄男（かきお）本名 正三 明治三十五年七月十四日 愛媛県西宇和郡川之石村（現保内町）に生まれる 早大政経科卒業 昭和三十七年三月七日歿す 享年五十九歳 法名 春曉院正容自泰居士 墓は東京都三鷹市下連雀四十六丁 禅林寺墓地にある



富澤赤黄男句碑

所在地 愛媛県今治市朝倉古谷甲 1249 竹林寺境内

海に沈んだ

春の古代の

灯を掬ふ

富澤赤黄男

碑陰

文字なし

略歴

富澤赤黄男(かきお) 本名 正三 明治 35 年 7 月 14 日 愛媛県西宇和郡川之石村
(現保内町)に生れる 早大政経科卒業 昭和 37 年 3 月 7 日歿す享年 59 歳
法名 春暁院正容自泰居士 墓は東京都三鷹市下連雀 4-18-20 禅林寺墓地にある



今澤 赤良

明治37年7月14日 愛媛県立中央図書館蔵
昭和37年7月14日 愛媛県立中央図書館蔵



富田うしほ句碑・村上鬼城句碑

所在地 愛知県西尾市花の木町 二五 富田潮見氏宅庭内

ゆるぎなき うしほ

左側面

赤城様名や

昭和四年五月 鬼城翁同門

うしほに建之

常閑忌

八面山にて

碑陰

いせの海見えて

昭和九年仲夏

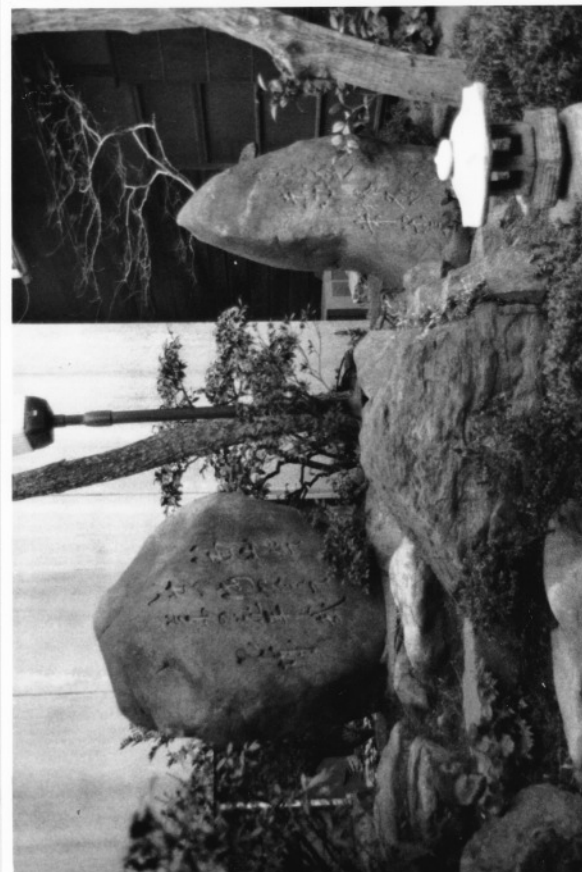
村上鬼城翁古稀記念為建之

菜の花平ら哉

鬼城

略歴

富田うしほ 本名 兼三郎 明治二十三年一月十九日 名古屋市に生まれる 昭和五十二年九月十九日歿す 享年八十八歳 墓は愛知県西尾市中町 聖運寺墓地にある



富田うしほ句碑・村上鬼城句碑

所在地 愛知県西尾市花ノ木町 2-15 富田潮児氏宅庭内

ゆるぎなき うしほ

赤城榛名や

常閑忌

左側面

昭和十四年五月 鬼城翁同門
うしほ門人建之

八面山にて

いせの海見えて

菜の花平ら哉

鬼城

碑陰

昭和九年仲夏
村上鬼城翁古稀記念為建之

略歴

富田うしほ 本名 兼三郎 明治 22 年 1 月 19 日 名古屋市に生まれる 昭和
52 年 9 月 19 日歿す 享年 88 歳 墓は愛知県西尾市中町 聖運寺墓地にある



富



山面八

景癖のサバ

菜の芥



甲 32
1 藤 銘

富田うしほ句碑

所在地 愛知県西尾市亀沢町 市立図書館域内

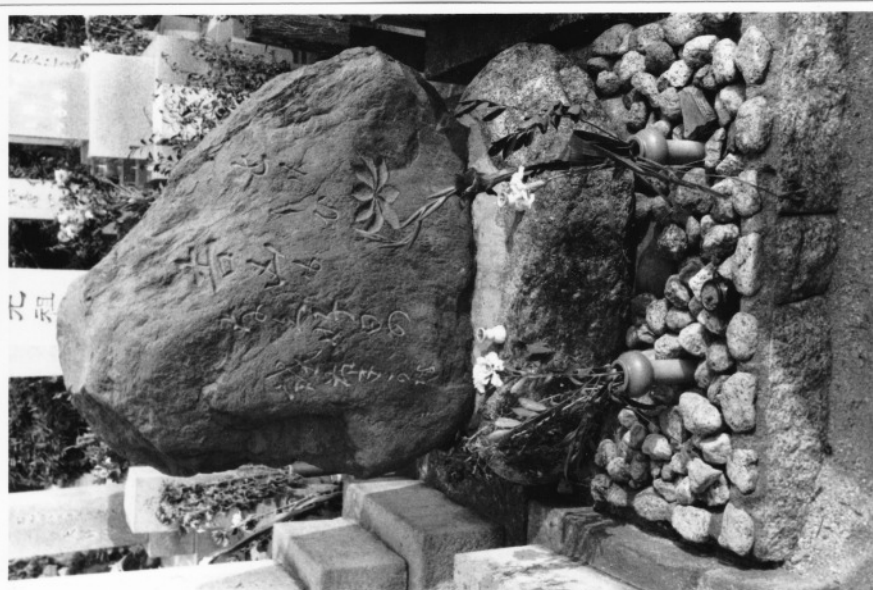
うしほ
ゆふ梅の
日を
うしなひし
白さかな

碑陰
俳誌「若竹」
第三二一〇号 記念
昭和三十一年五月
うしほ先生門人発起
建之

所在地 愛知県西尾市中町 聖運寺墓地内 富田家墓域

とも 花の
しび 模様の
古 凶も
なく好日の
試筆かな
うしほ

碑陰
昭和四十二年
七月建之
富田家



富田うしほ句碑

所在地 愛知県西尾市亀沢町 市立図書館 構内

うしほ

ゆふ梅の

日を

うしなひし

白さかな

碑陰

俳誌「若竹」

第三百号記念

昭和三十一年五月

うしほ先生門人発起

建之

所在地 愛知県西尾市中町 聖運寺墓地内 富田家墓域

とも 花の
しび 模様

吉凶も

なく好日の

試筆かな

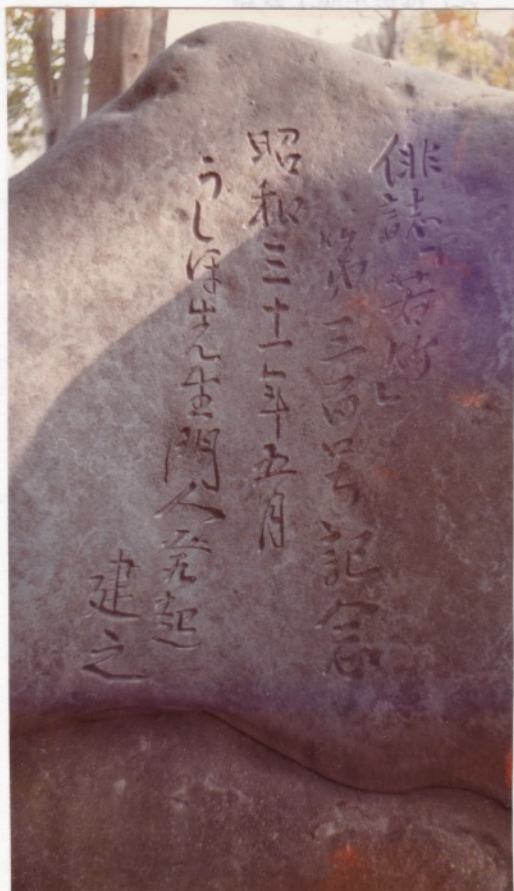
うしほ

碑陰

昭和四十二年

七月建之

富田家





富田碎花詞碑

所在地 兵庫県明石市荷山三番 明石高校 職員室内

第 十 回 全 國 中 等 學 校 優 勝 野 球 大 會
 善 闘 記 念 碑

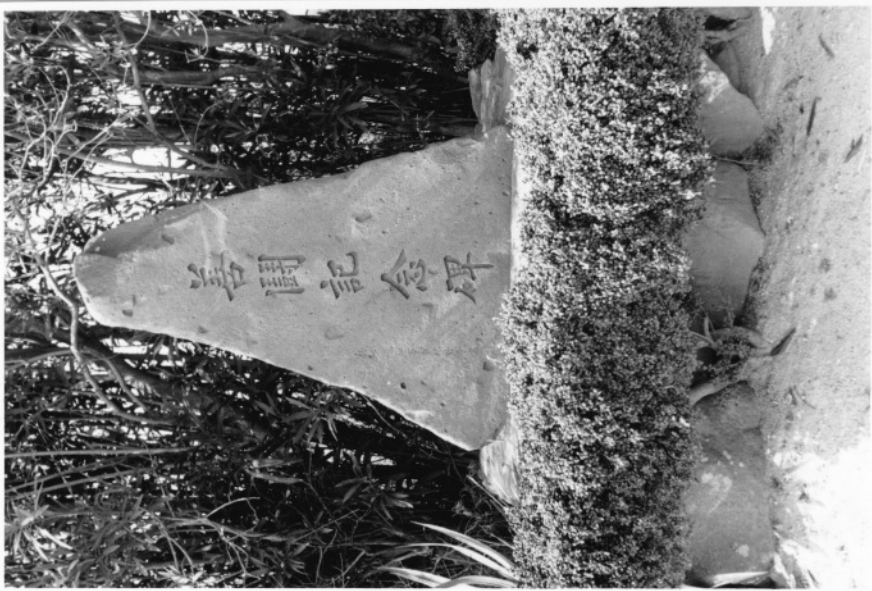
闘草一花ノ抽ンズルアルモ是ニ亞グモノナシ何ソノ
 秀拔ヲ判タン 好守善攻凡ソカトシテ傾ケ盡サレザル
 ナク意氣トシテ燃灼サレザルナシ更ニ火ト華サク技ト
 動作ニ至ツテハ巧緻俊敏相俟テ形容ノ辭ヲ虚シクスル
 至境蓋シ阿吽緊迫一番一切無ノ真空園ハ論議ヲ超
 エテ茲ニ顯前ス仰イデ桂樹ノ枝ヲ翳ス俯シテ楯ニ載キ
 レテ還ル何レカ男兒ノ本懷タル未ダ急カニ決シ得ベカ
 ラズ況ヤ榮辱ヲヤ燦タル圓蓋ヨリノ無碍光來タリ濺グ
 コト平等無差別乃チ戰ヲ獲タルモノ慘トシテ驕ラズ
 喪ヘルモノ亦悔ナケンコノ日闘ハレタル戰ヲハ我國球
 史空前ノ偉觀灼鐵ノ全現身全精根ヲ驅ツテ龍攘
 虎搏兵ヲ合スルコト實ニ二十有五洵ニ日月ト光輝
 フ争フノ豪華華吾人現實ニコレヲ目睹セル者千萬
 ノ耳目ト共ニ以テ不朽ノ大記録トナス、
 旋塵一過兩軍ノ陣營ヲメグリテ肅トシテ聲ヲ
 絶ツモノ素ヨリソノ所タリ敢テ賦ス

甲子園 昭和八年八月十九日

大阪中央放送局ノ囑ニ依リテ
 富田碎花

(注) 中京商業にも同じものが贈られたが戦災のため焼失

— J O B K —
 1 9 3 3



富田碎花詞碑

所在地 兵庫県明石市荷山町 1744 明石高校 職員室内

第		
十		闘草一花ノ抽ンズルアルモ是ニ亞グモノナクンバ何ンゾソノ
九		秀拔ヲ判タン 攻守善攻凡ソカトシテ傾ケ盡サレザル
回		ナク意氣トシテ燃灼サレザルナシ更ニ火ト華サク技ト
全		動作ニ至ッテハ巧緻俊敏相俟テ形容ノ辭ヲ虚シクスルノ
國		至境蓋シ阿吽緊迫一番一切無ノ眞空圈ハ論議ヲ超 I
善		エテ茲ニ顯前ス仰イデ桂樹ノ枝ヲ翳ス俯シテ楯ニ載セラ
中		レテ還ル何レカ男児ノ本懷タル未ダ急カニ決シ得ベカ K 3
關	中商	ラズ況ヤ榮辱ヲヤ燦タル圓蓋ヨリノ無碍光來タリ濺グ
等		コト平等無差別乃チ戰ヲ獲タルモノ慘トシテ驕ラズ B 3
記		喪ヘルモノ亦悔ナケンコノ日闘ハレタル戰コソハ我國球
學		史空前ノ偉觀灼鐵ノ全現身全精根ヲ驅ッテ龍攘 O 9
念	中	虎搏兵ヲ合スルコト實ニ二十有五洵ニ日月ト光輝
校		ヲ争フノ豪華吾人現實ニコレヲ目睹セル者千萬 J 1
牌		ノ耳目ト共ニ以テ不朽ノ大記録トナス
優		旋塵一過兩軍ノ陣營ヲメグリテ肅トシテ聲ヲ I
勝		絶ツモノ素ヨリソノ所タリ敢テ賦ス
野		
球		甲子園 昭和八年八月十九日
大		大阪中央放送局ノ囑ニ依リテ
會		富田碎花

(注) 中京商業にも同じものが贈られたが戦災のため消失



富田碎花歌碑

所在地 兵庫県西脇市坂本四丁目 西林寺境内

碎花

西海の

五島は遠し

都麻びとは

うつつに聴くや

鐘の梵音

西林寺にて

碑陰

この歌は昭和五十六年六月二十六日
坂井時忠知事を始め兵庫県
の文化に心よせる人々相つとい
あじさい園に遊びしあと椿楓庵
にて懇談せしとき富田碎花翁
の詠まれたものである
この度翁九十歳の齢をことほぎ
ここに歌碑とした

昭和五十六年四月二十一日建立

建立者

民岡哲夫

岡澤薫郎

森本二三

略歴

富田碎花 本名 戒治郎 明治二十三年十一月十五日 盛岡市仁王小路に生ま
れる 日本大学植民科卒業 昭和五十九年十月十七日 歿す 享年九十三歳



富田碎花歌碑

所在地 兵庫県西脇市坂本 455 西林寺境内

碎 花

西 海 の

五 島 は 遠 し

都 麻 び と は

う つ つ に 聴 く や

鐘 の 梵 音

西 林 寺 に て

碑陰

この歌は昭和五十六年六月二十八日
坂井時忠知事を始め兵庫県の文化に心よせる人々相つどい
あじさい園に遊びしあと椿楓庵
にて懇談せしとき富田碎花翁
の詠まれたものである

この度翁九十歳の齢をことほぎ
ここに歌碑とした

昭和五十六年四月二十一日建立

建立者

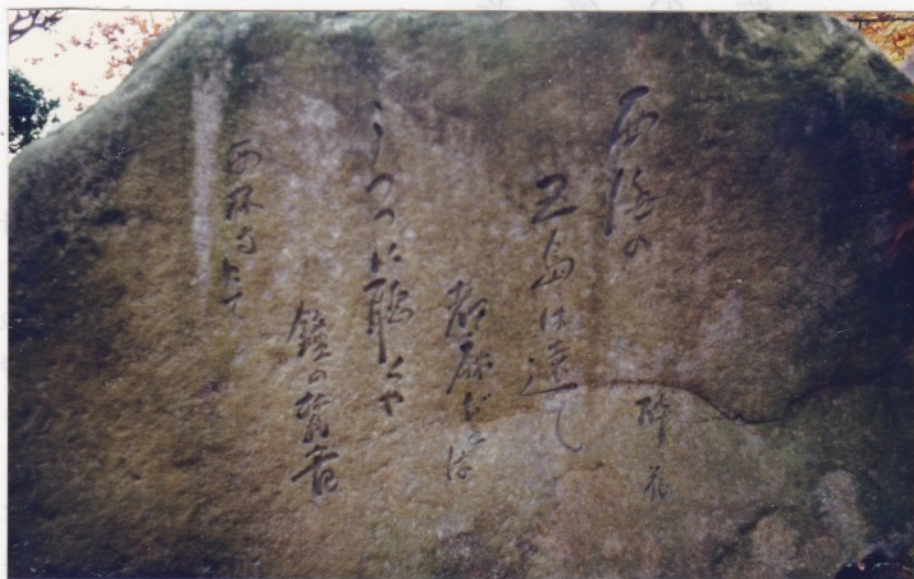
民岡哲夫

岡澤薫郎

森本一三

略歴

富田碎花 本名 戒治郎 明治 23 年 11 月 15 日 盛岡市仁王小路に生れる
日本大学植民科卒業 昭和 59 年 10 月 17 日歿す 享年 93 歳



富田碎花歌碑

所在地 兵庫県城崎郡城崎町湯島空宅 柳湯の前

碎花

碑陰

文字なし

城崎の

いでゆのまちの

秋まひる

静くして 散る

柳 はらはら



富田碎花歌碑

所在地 兵庫県豊岡市城崎町湯島 647 柳湯の前

碎花

城崎の

いでゆのまちの

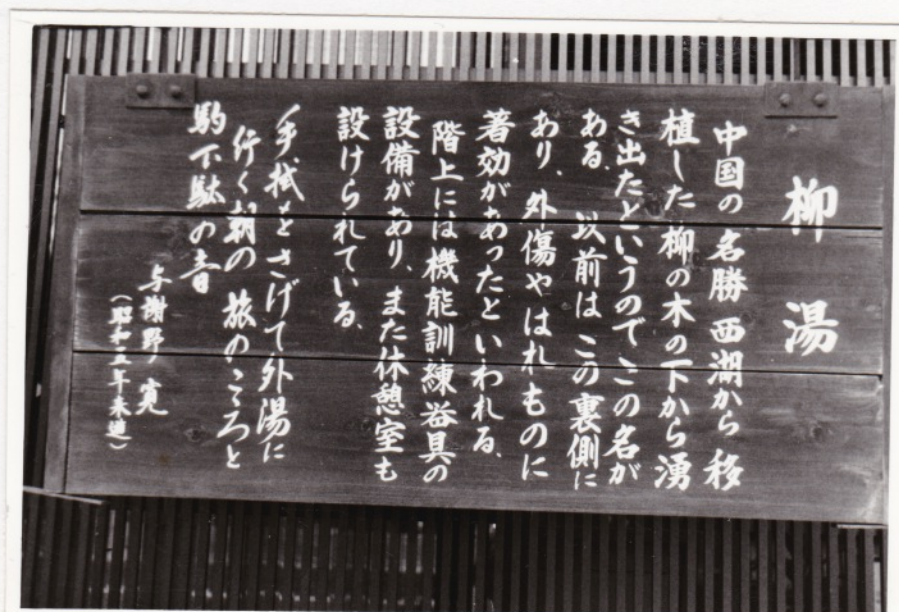
秋まひる

青くして散る

柳はらはら

碑陰

文字なし



富田碎花詩碑

所在地 兵庫県美方郡浜坂町諸寄四 「トスボスル諸寄荘」 中庭

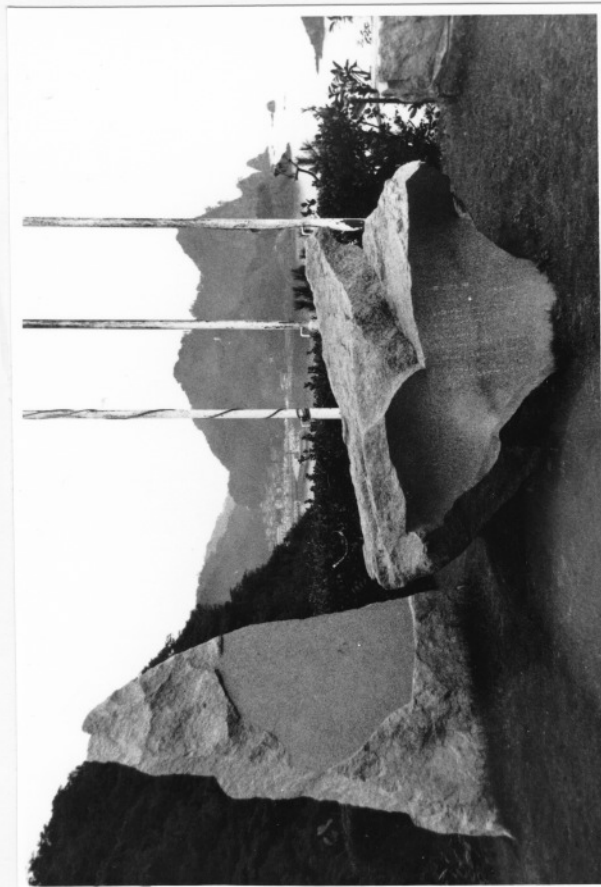
自然法爾

富田碎花

碑陰

文字なし

私は静かな自然を荒ら荒らしく揺すぶり動か
さうとするものではない
私はそのなかを何ものにもわずらはされずに
歩きつづけてゐる、
ただそれだけなのだ。
だが、私は単純に大地を踏んでゐるのだとは
思はない、
私自身が自然そのものになり切った瞬間を感じ
てゐる。
……大膽不敵なこの大口は裸ン坊の見得も
飾りも要らない徒歩者の幸福がきかせる
のだ。



富田碎花詩碑

所在地 兵庫県美方郡新温泉町諸寄 461 「ユースホステル諸寄荘」中庭

自然法爾

富田碎花

私は静かな自然を荒ら荒らしく揺すぶり動か

さうとするものではない

私はそのなかを何もののにもわずらはされずに

歩きつづけてゐる、

ただそれだけなのだ。

だが、私は単純に大地を踏んでゐるのだとは

思はない、

私自身が自然そのものになり切った瞬間を感

じてゐる。

…………大膽不敵なこの大口は裸おおくちン坊の見得も

飾りも要らない徒歩者の幸福がきかせる

のだ。

碑陰

文字なし



富

河

跡



うごち

がの子お跡

へ考建

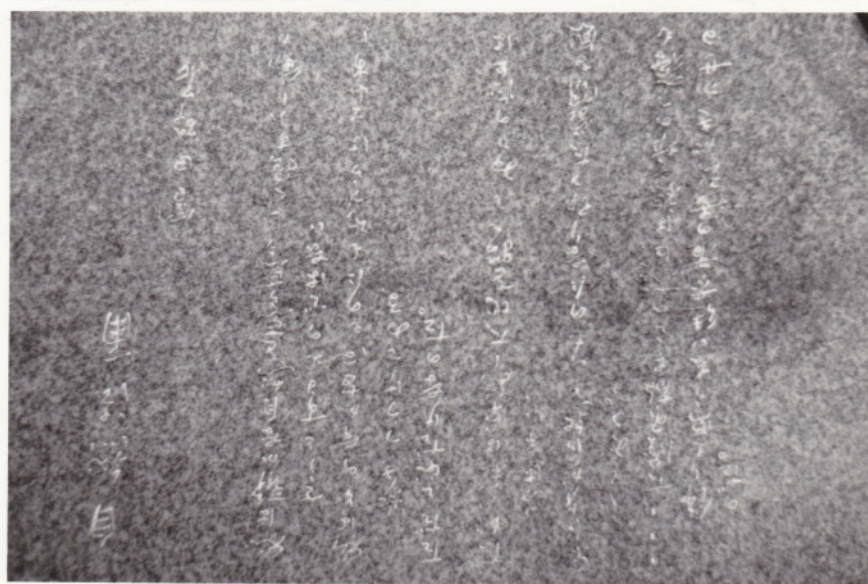
汁水子汁水

お跡 水汁

おお思

自歌集自跡

あアジ



富田常雄撰西郷四郎記念碑

所在地 新潟県東蒲原郡津川町 麒麟山 山頂

西郷四郎之碑

講道館長 嘉納履正

明治二十年の昔 講道館で山嵐をもって
鳴らしたのは西郷四郎である。この技は
空前にして絶後といふ。したがって、山
嵐の壮烈な技をもって小説に現はれた姿
三四郎を西郷四郎を小説化したものと見
なしたい郷里の人達の考へは無理からぬ
ことと思ふ。空想裡の紋景をもって生を
過ごす小説家として、姿三四郎が実在し
たといはれることの、これ以上の譽れは
ないが、姿三四郎はけっして西郷四郎で
なく、空想の人である。作者の空想裡に
浮んで三四郎の生涯の一齣に西郷四郎の
面影が浮んだことは事実である。

昭和二十七年秋

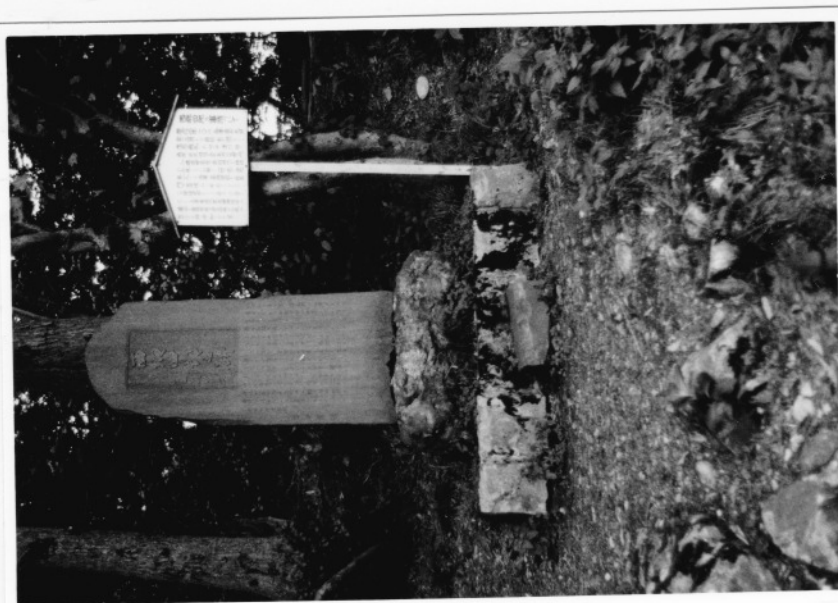
富田 常雄

碑陰

昭和二十八年六月建立

略歴

富田常雄 明治三十七年一月一日 東京小石川区下富坂に生まれる 明大商学部
経済学科卒業 昭和四十二年十月十六日歿す 享年六十三歳 法名 誠徳院顯章 日常
大居士 墓は東京都台東区谷中一五七 信行寺墓地にある



富田常雄撰 西郷四郎記念碑

所在地 新潟県東蒲原郡阿賀町津川 キリン山 山頂

西郷四郎之碑 (縦書き)

講道館長 嘉納履正

(この下に次の文章が縦書きで書かれている)

明治二十年の昔 講道館で山嵐をもって
鳴らしたのは西郷四郎である。この技は
空前にして絶後といふ。したがって、山
嵐の壮烈な技をもって小説に現はれた姿
三四郎を西郷四郎を小説化したものと見
なしたい郷里の人達の考へは無理からぬ
ことと思ふ。空想裡の叙景をもって生を
過ごす小説家として、姿三四郎が実在し
たといはれることの、これ以上の譽れは
ないが、姿三四郎はけっして西郷四郎で
なく、空想の人である。作者の空想裡に
浮んで三四郎の生涯の一齣に西郷四郎の
面影が浮んだことは事実である。

昭和二十七年秋

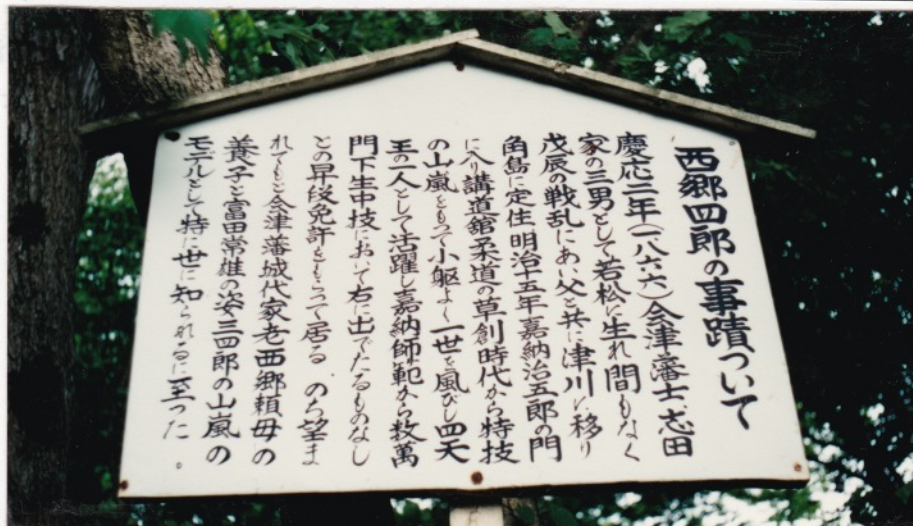
富田常雄

碑陰

昭和二十八年六月建立

略歴

富田常雄 明治37年1月1日 東京小石川区富坂に生れる 明大商学部経済学科
卒業 昭和42年10月16日歿す 享年63歳 法名 誠徳院顯章日常大居士 墓は
東京都台東区谷中 1-5-7 信行寺墓地にある



富田木歩句碑

所在地 東京都墨田区向島二五七七 二圃神社境内

夢に見れば

死もなつかしや

冬木風

木 步

碑陰

大正十三年九月一日震火の一周年に於て
木歩富田一君慰霊の為建之 友人一同

亞浪書

略 歷

富田木歩 本名 一(はな) 明治三年四月十四日 東京本所区小梅町に生まれる
独学 大正十二年九月一日歿す 享年二十六歳 法名 震外木歩信士 墓は東京都江
戸川区平井二丁目三十二番地最勝寺墓地にある。



富田木歩句碑

所在地 東京都墨田区向島 2-5-17 三囲神社境内

夢に見れば

死もなつかしや

冬 木 風

木 歩

碑陰

大正十三年九月一日震火の一周年に於て

木歩富田一君慰霊の為建之 友人一同

亞 浪 書

略歴

富田木歩 本名 一(はじめ) 明治 30 年 4 月 14 日 東京本所区小梅町に生れる
独学 大正 12 年 9 月 1 日歿す 享年 26 歳 法名 震外木歩信士 墓は東京都
江戸川区平井 1-25-32 最勝寺墓地にある



三國神社の本殿 ↓ (正月風景)



富田木歩句碑

所在地 東京都墨田区向島一丁目 枕橋近くの緑地歩道

(正面)

俳人 富田木歩終焉の地

(右側面)

木歩は本名^{はじめ}を「^{はじめ}」とい、明治三十年に墨田区向島三丁目の鱧屋の次男に生まれました。二歳のとき両親の申を失い、小学校に入学し、彼はいろはカルタ等で遊びながら文学を覚えました。

なだの洪水で家は氾濫のどん底に陥り、二人の姉は黄泉に身を沈め、妹は女工に弟も肉職の手伝い、彼も徳義会に出ました。しかし仲間^{つち}に幸く当られ仕方を学びました。こうした苦しみと孤独の中で、彼は俳誌「ホトギス」を知り、俳句に惹かれます。

(左側面)

やがて、彼は田原重に師事して句作に精進し、その俳句は著く輝きだすようになります。ときに彼を理解し、援助する新井風という俳友も、彼に俳句を学ばせてくれました。しかし、妹も肺病で死に、彼自身肺を病むといった苦境の句として、

かきくも^の咽^い嚔^も 妹^{いも}上^{はう}鳳^{せん}仙^か花

木歩は関東震災にあい、声風に背負われて墨田に避難しましたが、枕橋の傍に逃げられず、このあたりで焼死しました。三十八歳でした。

(裏面)

平成元年三月 墨田区



富田木歩句碑

所在地 東京都墨田区向島 1 丁目 枕橋近くの緑地歩道

(正面)

俳人 富田木歩終焉の地

(右側面)

木歩は本名を一^{はじめ}といい、明治三十年に墨田区向島三丁目の鰻屋の次男に生まれました。二歳のとき両脚の自由を失い、小学校に入学／できず、彼はいろはカルタ等で遊びながら文字を覚えました。／

たびたびの洪水で家は貧乏のどん底に陥り、二人の姉は苦界に身を沈め、妹は女工に弟も内職の手伝い、彼も徒弟奉公に出ました。／

しかし仲間^{つら}に辛く当られ仕方なくやめました。こうした苦しみと孤独の中で、彼は俳誌「ホトトギス」を知り、俳句に惹かれます。／

(左側面)

やがて、彼は臼田亞浪に師事して句作に精進し、その俳句は高く評価されるようになります。さらに彼を理解し、援助する新井声風／という俳友もでき、彼に俳句を学ぶ者もできました。しかし、妹も弟も肺患で死に、彼自身も肺を病むといった苦境での句として、／ かそけくも 咽喉^{のど}鳴る 妹よ 鳳仙花^{いも ほうせんか}／

木歩は関東大震災にあい、声風に背負われて墨堤に非難しましたが、枕橋が焼けて逃げられず、このあたりで焼死しました。二十六／歳でした。

(裏面)

平成元年三月 墨 田 区

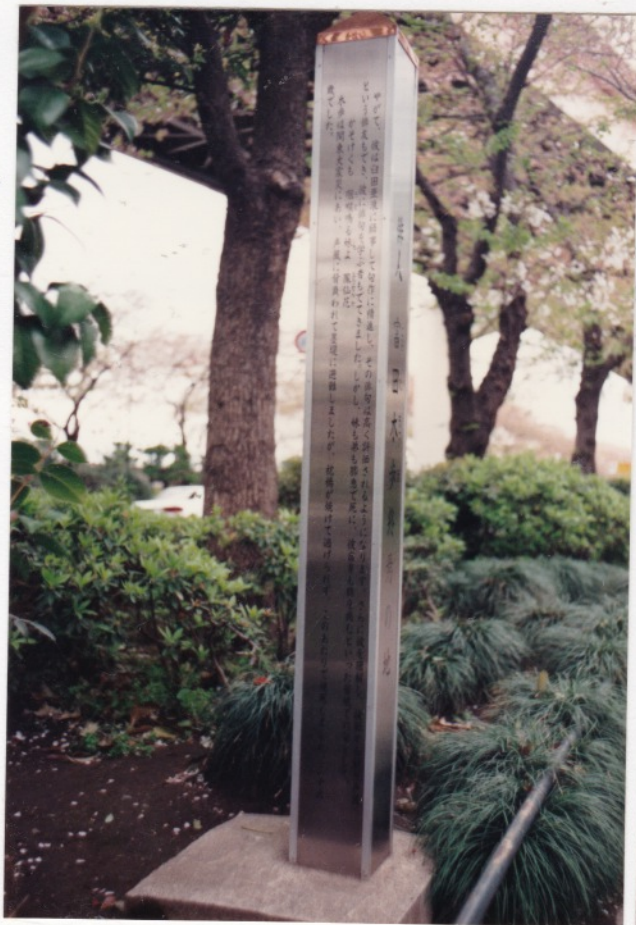
裏面



正面
←



左側面
→



右側面
←



富田木歩句碑

所在地 東京都墨田区向島一丁目 枕橋近くの緑地歩道

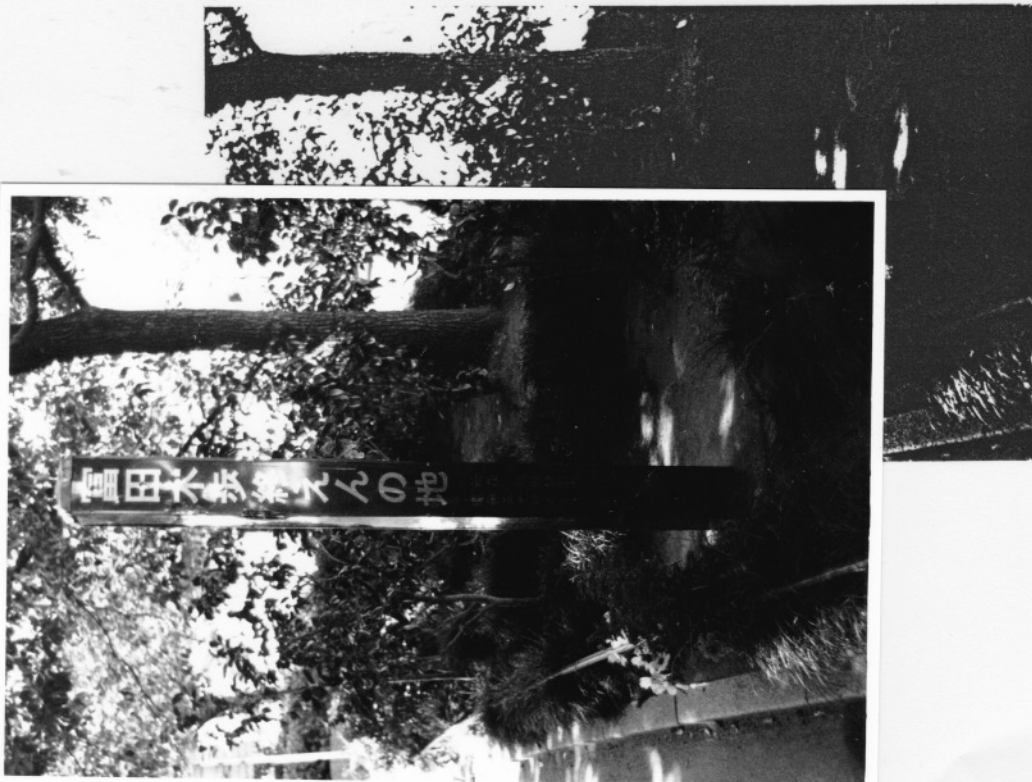
(正面)

木歩は、一八七三年に墨田区向島に生れました。本名は「^{はつち}木歩」
 小學校にもゆけず、独りていはゆるや
 めぐさきと遊ばなうとまき暗にうとから勉強を始め、一〇才の頃には雑誌が読めるようになった。一七才のとき、俳句大会に出ましたが、
 仲間にはうたれとやめとします。二〇の孤
 獨の心をきけたのが俳句でした。やがて自由黨に師事、さらに蓬江米臣に学ぶなど、仲間と認められ、俳句の啄木に比せられる
 評価を得ました。関東大震災の時、伊奈新井風
 に助けられた埋まやと遇れましたが、三才を火に置かれ、川を渡る船もなく、断腸の思いで風を別れ、このあたりで短い生涯を終えました。
 木歩と同じ墓を築き 木歩

(右側面 左側面)

富田木歩終えんの地 所在 墨田公園内 枕橋附近
 昭和五十四年三月 建設 墨田区

(裏面) 文字なし



富田木歩句碑

所在地 東京都墨田区向島 1 丁目 枕橋近くの緑地歩道

(正面)

富田木歩終えんの地 所在 墨田公園内 枕橋附近

(左側面)

木歩は、一八九七年墨田区向島に生まれました。本名を一^{はじめ}、家は鰻屋でしたが、たびたびの洪水で没落しました。病気のため二才で両脚の自由を失い、小学校にゆけず、独りでいろはカルタ等や／めんこをもて遊びながら文字を暗記することから勉強を始め、一〇才の頃には雑誌が読めるようになりました。一七才のとき、徒弟奉公に出ましたが、仲間にいじめられてやめてしまいます。この孤／独の心をひきつけたのが俳句でした。やがて彼は臼田亞浪に師事、さらに渡辺水巴に学ぶなどして、俳人として認められていき、短歌の啄木に比せられる評価を得ました。関東大震災の時、俳友新井声風／に助けられこの地までやっと逃れてきましたが、三方を火に包まれ、川を渡る船もなく、断腸の思いで声風と別れ、このあたりで短い生涯を終えました。／

犬猫と同じ姿や冬座敷 木歩

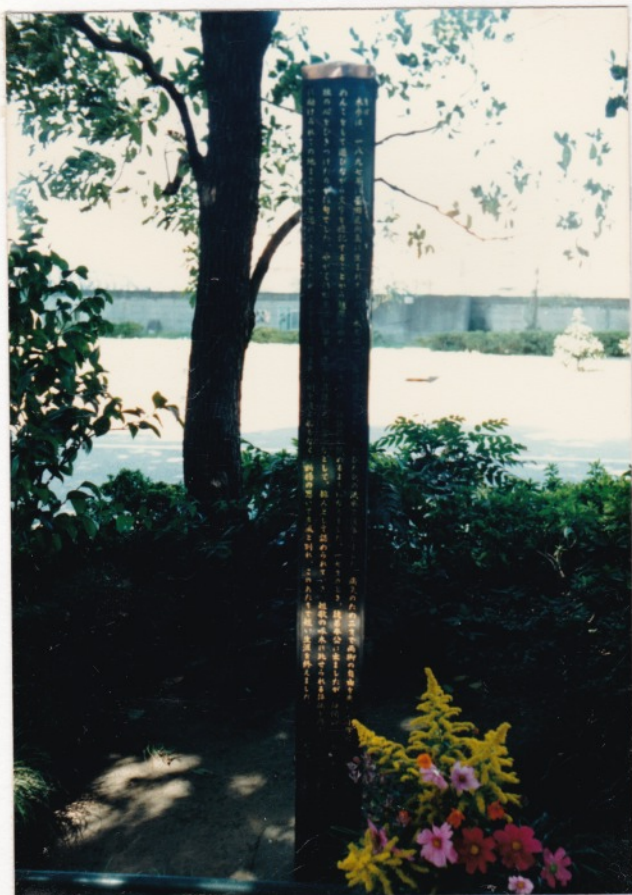
(右側面)

昭和五十四年三月 建設 墨田区

(裏面)

文字なし

ニの碑は新しい碑が出来るに於て現存はしない ←



ふ春を鑑する園づくりである。このように鑑する園の鑑賞、くわゆる鑑賞園も、本来、川を渡る鑑もよく、

↓
a 女 里 王 田 公 園



富安風生句碑

所在地 福島県伊達郡桑折町上郡柳下五 醸芳中学校校庭

みちのくの

伊達の

郡の

春田かな

風生

碑陰

文字なし

略歴

富安風生 本名 謙次 明治十八年四月十六日 愛知県八名郡金沢村（現愛知県一宮町）に生まれる 東大独法科卒業 昭和五十四年二月二十三日歿す 享年九十三歳 墓は東京都東村山市萩山 小平霊園 四十二区一側九番にある



富安風生句碑

所在地 福島県伊達郡桑折町上郡柳下5 釀芳中学校 校庭

みちのくの

伊達の

郡の

春田かな

風生

碑陰

文字なし

略歴

富安風生 本名 謙次 明治18年4月16日 愛知県八名郡金沢村(現宝飯郡一宮町)に生れる 東大独法科卒業 昭和54年2月22日歿す 享年93歳

墓は東京都東村山市萩山 小平霊園 42区1側9番にある

富安敏子 明治28年5月18日 東京に生まれ 風生に嫁す 跡見高女卒業 平成元年3月7日歿す 享年93歳 墓は小平霊園の風生と同じである

翻对 对字中衣翻



富安風生句碑

所在地 福島県双葉郡浪江町北幾世橋北原 大聖寺境内

鮭あはれ老の手だれの箱を
いく 風生

碑陰

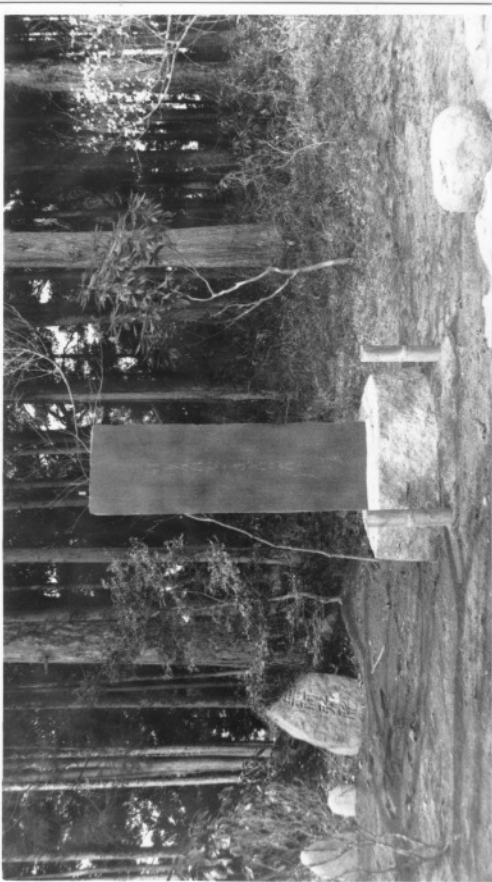
鮭あはれ老の手だれの箱をつく 風生
富安風生先生昭和二十二年の作。当時の鮭築
は、高瀬川畔長田にあった。すなだる者も、
このあわれびをもつてなりわいとした。合掌。
昭和五十八年十月建立
浜 若 葉 会

所在地 福島県双葉郡川内村三合田 長福寺境内

石に彫り
た、へて
美し
噴井かな 風生

碑陰

色々書かれているが木のため近寄れ
ず不明(昭和廿五年十二月に建立と云々)



富安風生句碑

所在地 福島県双葉郡浪江町北幾世橋北原 大聖寺境内

風 生

鮭 あはれ老の手だれの箒を

う く

碑陰

鮭あはれ老の手だれの^{やす}箒をうく 風生
富安風生先生昭和二十二年の作。当時の鮭築
は、高瀬川畔長田にあった。すなどる者も、
このあわれびをもってなりわいとした。合掌。

昭和五十八年十月建立

浜 若 葉 会

所在地 福島県双葉郡川内村三合田 長福寺境内

風 生

石 に 彫 り

た ゝ へ て

美 し

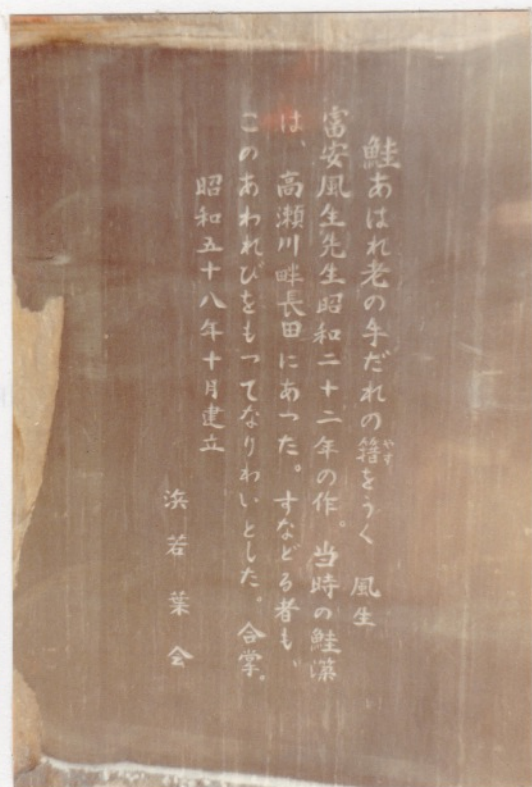
噴 井 か な

碑陰

色々書かれているが木のため近寄れず
不明(昭和廿六年十一月に建立とのこと)



梅
か
満
開
↓



鮭あはれ老の年だれの符をうく 風生
富安風生先生昭和二十二年の作。当時の鮭満
は、高瀬川畔長田にあつた。すなわち若も
このあわれびをもつてなりわいとした。合掌。
昭和五十八年十月建立
浜若葉会

↑
句
碑



大
聖
寺
本
堂
←



富安風生句碑・箭原美代子句碑

所在地 福島県原町市牛来出口(三つどき)三三 箭原要氏宅庭内

(その一)

野馬追の

緋の母衣

はらみ

おん大将

風生

碑陰

風生先生歴
若葉主幸
芸術員会員(九十一才)
元郵政次官

昭和五年六月 要 建之
(三)

(美代子句碑)

野馬追の

終へたる原の

うつは草

美代子

碑陰

昭和五年六月 要 建之
(三)

(その二)

風生先生歴
若葉主幸
芸術員会員(九十一才)
元郵政次官電波審議委員長

昭和五年六月 要 建之
(三)

碑陰

野馬追の

緋の母衣

はらみ

おん大将

風生



富安風生句碑

所在地 福島県原町市 東ヶ岡公園 野馬追の里 歴史民俗資料館の一角
(もと牛来出口(ごらいでぐち)131 箭原家にあったもの)

野馬追の

緋の母衣

はらみ

おん大将

風生

(注) 母衣は「ほろ」と読む

碑陰(その一)

風生先生歴
若葉主宰
芸術院会員
元郵政次官
昭和五十一年六月 要

美代子 建之
(ハナ)

碑陰(その二)

風生先生歴
若葉主宰
芸術院会員(九十一才)
元郵政次官電波管理委員長
昭和五十一年六月 要 建之

美代子(ハナ)

(注) どちらの碑陰が移設されているのか?

①



↓ ②

↓ ③

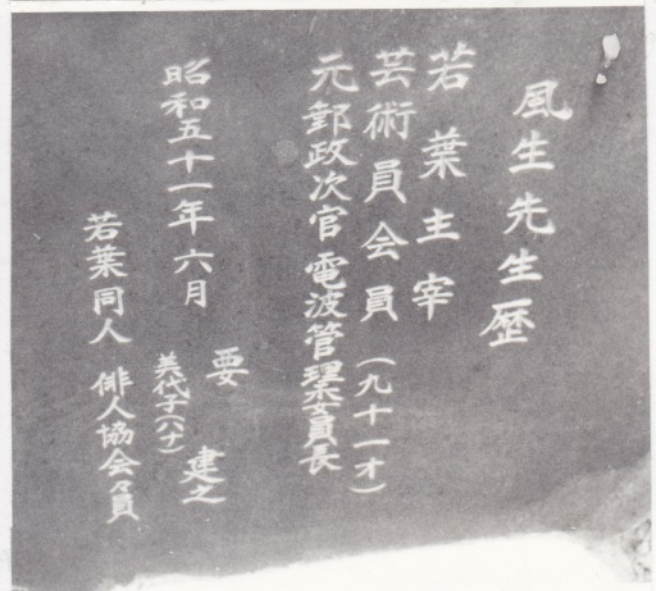
① ↓



①
← ③

裏 ②

表 ②



おん馬追の (表)

③



富安風生句碑

所在地 群馬県吾妻郡中之条町折田 中之条ダム湖畔

父の如

また

祖父の

こと

大夏木

風生

碑陰

昭和二十七年五月建之

石工 矢代悦太郎

石材寄贈者

西中条 蟻川 丑朝

所在地 群馬県吾妻郡中之条町四万温泉 譲葉公園内

風生

春嶺をかさねて

四万といふ名あり

碑陰

昭和二十六年十一月建之

四万温泉 楓吟社



富安風生句碑

所在地 群馬県吾妻郡中之条町下折田 中之条ダム湖畔

父 の 如
また
祖 父 の
ごと
大 夏 木
風 生

碑陰

昭和三十七年五月建之
石工 矢代悦太郎
石材寄贈者
西中之条 蟻川 丑朝

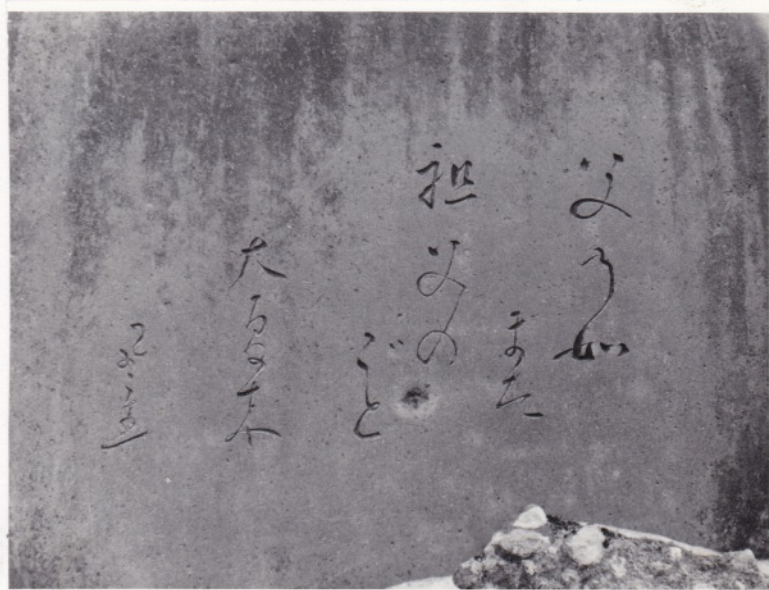
所在地 群馬県吾妻郡中之条町四万温泉 譲葉公園内

風 生
春 嶺 を か さ ね て
四 万 と い ふ 名 あ り

碑陰

昭和二十六年十一月建之
四万温泉 楓吟社

中ノ条
↓



大 奥 木

風 土



富安風生句碑

所在地 埼玉県秩父郡大滝村三峰三元 三峯神社 日本武尊像横

嶺々を

伏せ

霧

中空を

飛び

けり

風生

右側面

昭和五十年十月

埼玉若葉会建之

副碑

富安

風生

略傳

本名 富安謙次 俳号 風生
明治十八年三河に生る官歴 元通信事務次官 元電波
管理委員会会長 高浜虚子に師事して 俳句を学び 現に
俳誌「若葉」を主宰す 昭和四十九年日本芸術院会員に任命さる
次大会の席上詠なり 刻句は昭和四十九年四月 三峰山における「若葉」誌年

嶺々を伏せ霧 中空を飛びけり

副碑裏面 文字なし



富安風生句碑

所在地 埼玉県秩父市三峰 298 三峯神社 日本武尊像の横

嶺々を

伏せ

霧

中空を

飛び

けり

風生

右側面

昭和五十年十月

埼玉若葉会建之

副碑

本名 富安謙次 俳号 風生

明治十八年三河に生る 官歴 元通信事務次官 元電波

管理委員会会長 高浜虚子に師事して 俳句を学び 現に

富安

俳誌「若葉」を主宰す 昭和四十九年日本芸術院会員に任命さる

刻句は昭和四十九年四月 ここ霊地三峰山における「若葉」誌年

風生

次大会の席上詠なり

略傳

嶺々^{ねね}を伏せ霧^{きり} 中空を飛びけり

副碑裏面

文字なし





富安風生句碑

所在地 千葉県市川市真間町四九一 弘法寺境内

おれさなる

空より

しだれぞくら

かな

風生

碑陰

富安風生 本名 謙次

明治十八年四月十六日愛

知縣生 高浜虚子に師事

若葉主幸 碑面の俳句は

昭和十二年四月二日 当

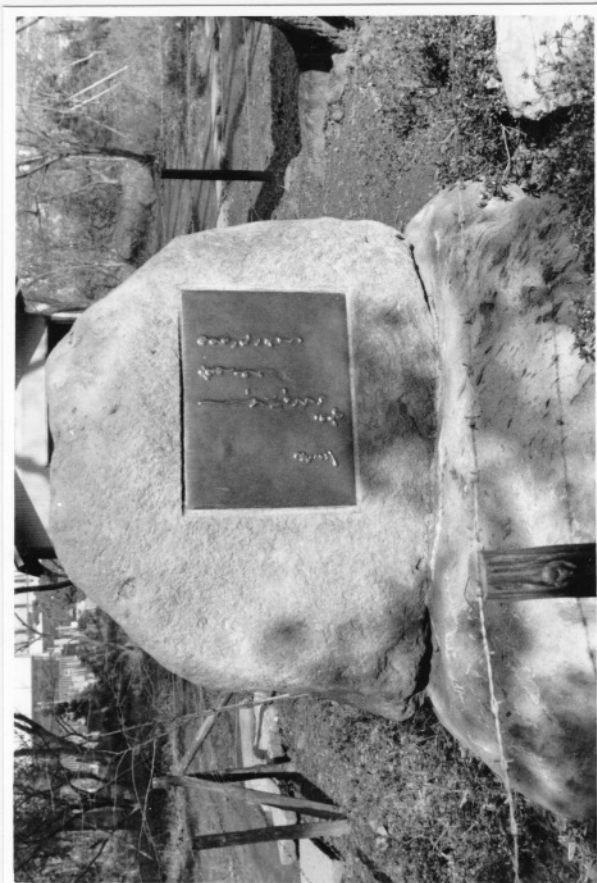
境内にて詠む

昭和十五年四月廿

富安風生句碑建立資資之

銅彫金 二橋美衡

施工 青山石勝



富安風生句碑

所在地 千葉縣市川市真間町 4-9-1 弘法寺境内

まさをなる

空より

しだれざくら

かな

風生

碑陰

富安風生 本名 謙次
明治十八年四月十六日愛
知縣生 高浜虚子に師事
若葉主宰 碑面の俳句は
昭和十二年四月三日 当
境内にて詠む

昭和四十五年四月五日

富安風生先生句碑建立委員会建之

銅板彫金 二橋美衡

施工 青山石勝



富安風生句碑

所在地 現在不明 (元谷津遊園内宝竜閣庭内)

風 生

雲涼し陸にあつまり沖に散り

碑陰

人工美と自然美を併せもつ

題人

真の文化の境谷津遊園は曩に房総十二景の一に選ばれ

五 號 二十

正に東日本随一の臨海大遊園として普く世の知るところとなる

名 助 七 名

今や我が国文化勝蹟を世界に高唱するこの時偶々

列 員 列 記

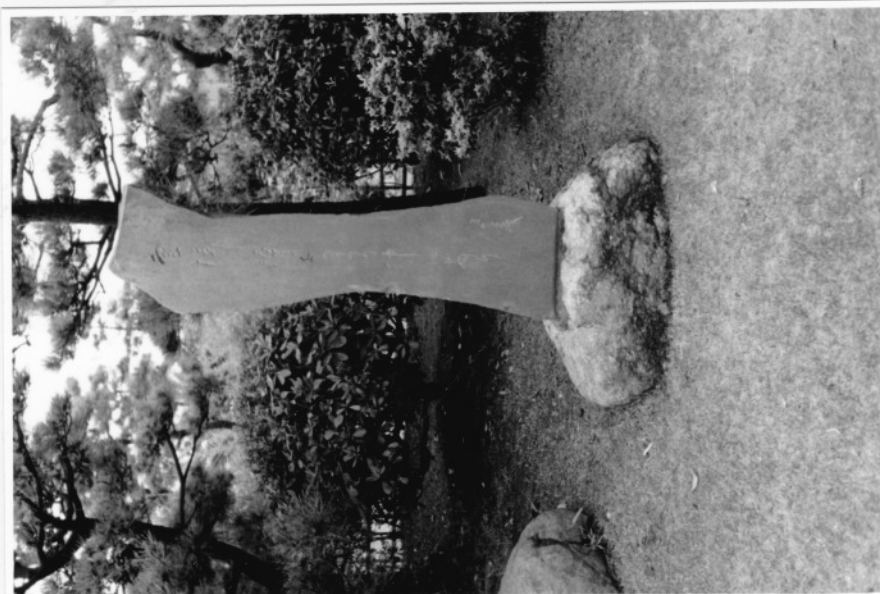
富安風生先生この地近詠の小碑を建立し名勝谷津を

記 (略)

永久に讃へもつて我が国風流文学の唱道に寄与せんとす

(略) 小暮風書

昭和三十年十一月建之



富安風生句碑

所在地 千葉県 現在行方不明(元 千葉県習志野市 谷津遊園内 宝竜閣庭内のもの)

風 生

雲 涼 し 陸 に あ つ ま り 沖 に 散 り

碑陰

人工美と自然美を併せもつ

真の文化の境谷津遊園は曩に房総十二景の一に選ばれ

正に東日本随一の臨海大遊園として普く世の知るところとなる

今や我が国文化勝蹟を世界に高唱するこの時偶々

富安風生先生この地近詠の小碑を建立し名勝谷津を

永久に讃へもつて我が国風流文学の唱道に寄与せんとす

昭和三十年十一月建之

発起人

五 賛 廿

名 助 七

列 員 名

記 列

(略) 記

小暮青風書

(03) 内閣府 内閣参事 市野忠信

主 風

0 3 2 1 0 0



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市広場二四三 鏡忍寺境内

古稀といふ

春風に

居る

齢かな

風生

碑陰

深空より垂れ居る枝の松の花 風生

富安風生先生が東條村に疎開せられ當山に右の句を印して滿拾年の時若葉誌亦三百号を迎へ師の古稀を壽ぎ茲に一門相謀り當山第四十一世日照上人代之を建立せり

東條螢火会

昭和五十九年

上野二葉会

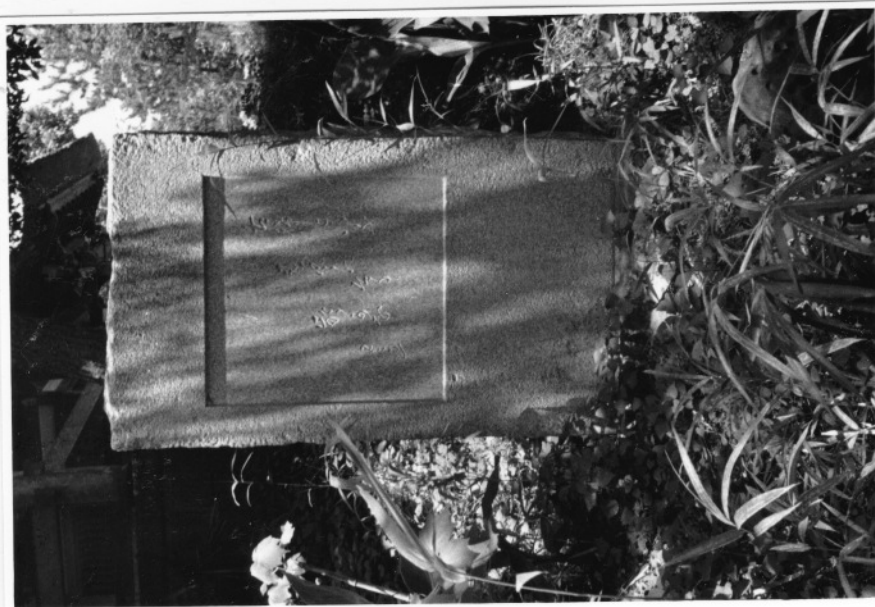
二月廿日

小湊若葉会

勝浦若葉会

発起人 十九名列記(略)

書 小島泰石



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市広場 1413 鏡忍寺境内

古稀といふ

春風に

居る

齢かな

風生

碑陰

深空より垂れ居る枝の松の花 風生

富安風生先生が東條村に疎開せられ當山に右の句を印して満拾年の時若葉誌亦三百号を迎へ師の古稀を壽ぎ茲に一門相謀り當山第四十一世日照上人代之を建立せり

東條螢火会

昭和二十九年 上野二葉海

一月吉日 小湊若葉会

勝浦若葉会

発起人 十九名列記（略）

書 小畠泰石



↑ 風生句碑

↑ 子句碑



富安風

源子 張子河

古藤

春



(洞)
百葉鳥小

鳥

鳥

富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市松崎 簡易保険老人ホーム 庭内

風 生

生くること

やうやく

たのし

老の春

碑陰

簡易保険五十週年記念を
祝して之を建つ
昭和四十二年六月三日
外房若葉俳句会
泰石書

所在地 千葉県鴨川市広場三三三 島海治郎氏宅庭内

わが道をふりかへり見て

月涼し

風 生

碑陰

昭和三十一年初夏
完 建之



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市西町二丁目 永明寺境内

梅こぼれ

碑陰

庭の

真砂

に

日本芸術院会員 俳誌「若葉」主宰富安風生先生
が愛好する当山の離室に避寒されてから三回目の春を
迎えるに当りご逗留を記念するとともに当年九十三歳
の御長壽を祝福して当山法主主唱の下若葉誌友これに
協力し建立させて頂いたものである

昭和五十二年正月

恵日山永明寺第二十一世恵山省道

協賛 外 房 若 葉 会

小島つくし書

濱千鳥

九十三叟

風生



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市西町 1146 永明寺境内

梅 こぼれ

庭 の

真 砂

に

濱 千 鳥

九十三叟

風 生

碑陰

日本芸術会員 俳誌「若葉」主宰富安風生先生
が愛好する当山の離室に避寒されてから三回目の春を
迎えるに当りご逗留を記念するとともに当年九十三歳
の御長壽を祝福して当山法主主唱の下若葉誌友これに
協力し建立させて頂いたものである

昭和五十二年正月

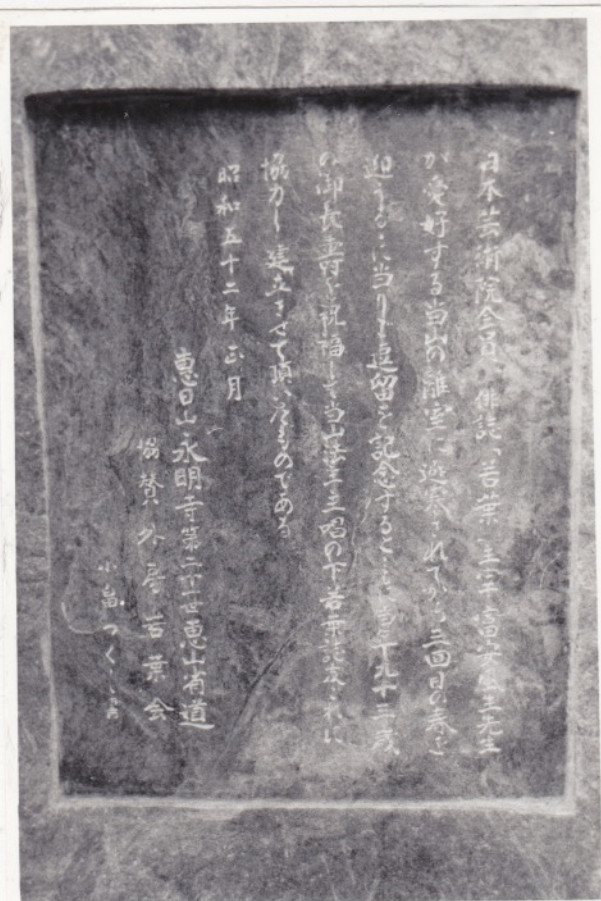
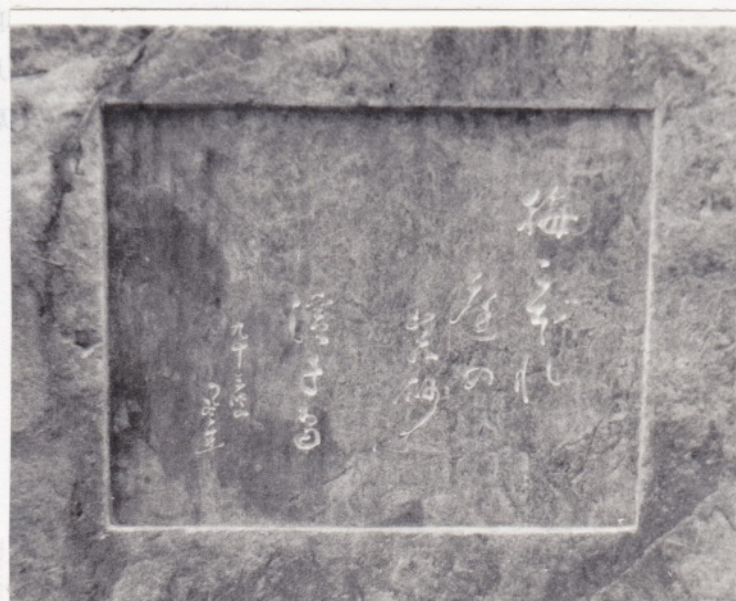
恵日山永明寺第二十一世恵山省道

協賛 外 房 若 葉 会

小島つくし書



富
山
新



日本芸術院会員 俳諧、若菜 三平 富安屋主先生
が愛好する当山離室に遊覧されてから三回目の春を
迎えるに当り逗留を記念するとして當年九十三歳
の御長寿賀と祝福として当山堂主侶の下若菜誌友に
協力し建立させて頂くものである
昭和五十二年二月
恵日山 永明寺第二十世恵山有道
協賛 外居 若菜 会
小島 つくし

梅

庭の
主人

信子

九十三歳
の春

富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市松崎 「簡易保険老人ホーム」庭内

風 生

生 く る こ と

や う や く

た の し

老 の 春



碑陰

簡易保険五十週年記念を
祝して之を建つ

昭和四十一年六月二十六日

外房若葉俳句会

泰石書

所在地 千葉県鴨川市広場 1283 鳥海治郎氏宅庭内

わ が 道 を ふ り か へ り 見 て

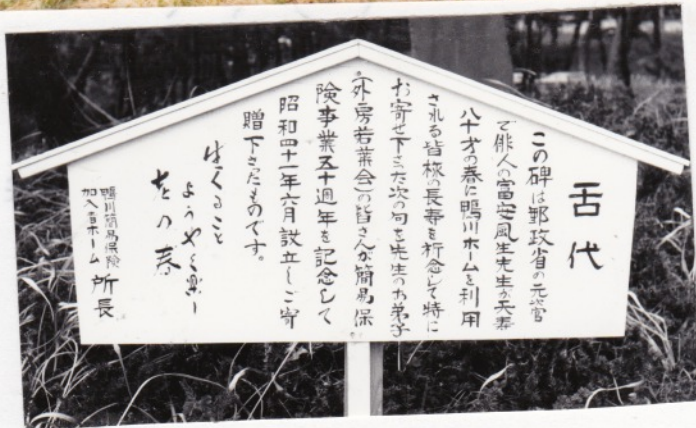
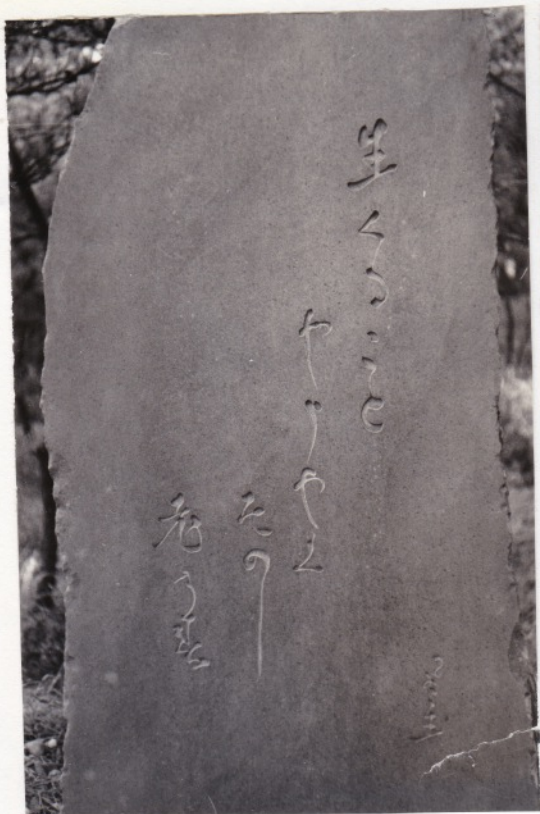
月 涼 し

風 生

碑陰

昭和三十六年初夏

完 建之



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市西町二四 永明寺枕鐘

老松の
 脈はひ
 立てる
 みどり
 かな
 九十二更
 風生

恵日山永明寺

松の枝の絵

鑄匠香取門下
 足利住 鵜田 力

利妙夕朝渾恵
 家音滅念身日
 安普業報般山銘
 國及苦徳若上曰
 永迷——海鯨
 開夢撞打潮鐘
 太頓——応復
 平驚情誠声鳴
 勅賜慈眼福海禪師永平慧玉謹撰並書

南無釋迦牟尼佛

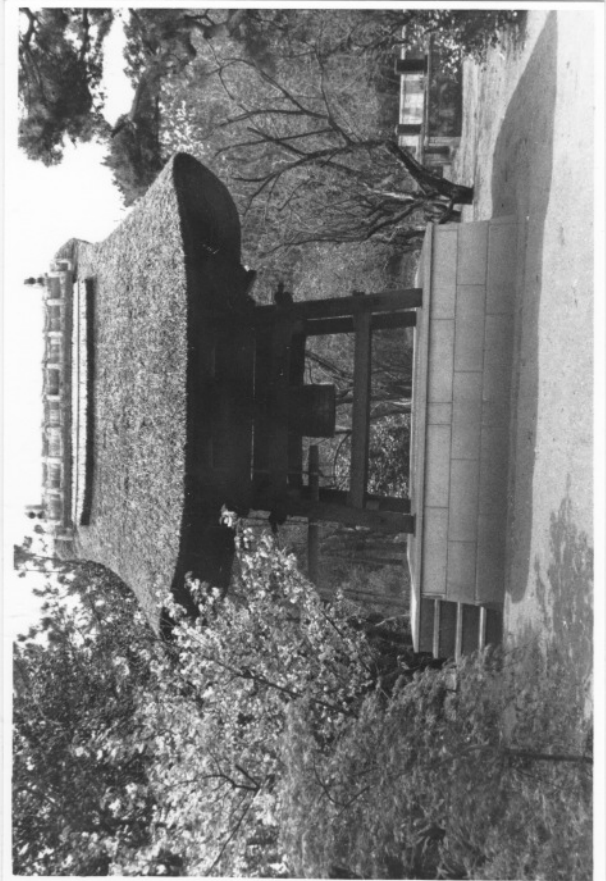
勅賜禪師 永平 慧玉 敬書

開創七百年記念再鑄
 維時 昭和五十四年十月吉日
 当山現住廿一世 慧山 省道代

寄進者

当所出身 栗原 恭子

当所出身 山口 幹愛
 吳市出身 幅野 正雄



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市西町 1146 永明寺梵鐘

老松の
脈はひ
立てる
みどり
かな
九十二叟
風生

恵日山永明寺

松の枝の絵

鑄造香取門下

足利住 鴫田 力

銘曰

恵日山上 鯨鐘復鳴
渾身般若 海潮応声
朝念報徳 一打一誠
夕滅業苦 一撞一情
妙音普及 迷夢頓驚
利家安国 永開太平
勅賜慈眼福海禪師永平慧玉謹撰並書

南無釋迦牟尼佛

勅賜禪師 永平慧玉敬書

開創七百年記念再鑄

維時 昭和五十四年十月吉日

当山現住廿一世慧山省道代

当所出身 山口幹愛

呉市出身 幅野正雄

寄進者 当所出身 山口 保

栗原恭子



鐘の軒の付

才門郊香齋翁

代 田御 泊降皇



丁卯辰木

富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市東町二〇〇 「鴨川シーサイドホテル」裏庭

うら山に

鳶

一望

浪

涼

し

風生

碑陰

この句碑は米壽をお迎えになられた富安風生先生がこの地の風景をお詠みになつたもので当ホテルの宝として建てさせて頂いたものであります
昭和四十八年十月十四日

鴨川シーサイドホテル

社長 赤羽幸作

世話人 四名列記(略)

所在地 千葉県鴨川市広場三三 小島泰石(つくし)氏宅庭内

つくし君

新居

春掛として歌切のしやれた幅

風生

碑陰

昭和二十五年於初句会席之御作

昭和五十二年三月建 つくし



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市東町 1010 「鴨川シーサイドホテル」裏庭

う ら 山 に

鳶

一 望

に

浪 涼

し

風 生 碑陰

この句碑は米壽をお迎えになられた富安風生先生がこの地の風景をお詠みになったもので当ホテルの宝として建てさせて頂いたものであります

昭和四十八年十月十四日

鴨川シーサイドホテル

社 長 赤 羽 幸 作

世話人 四名列記(略)

所在地 千葉県鴨川市広場 1331 小畠泰石(号つくし)氏宅庭内

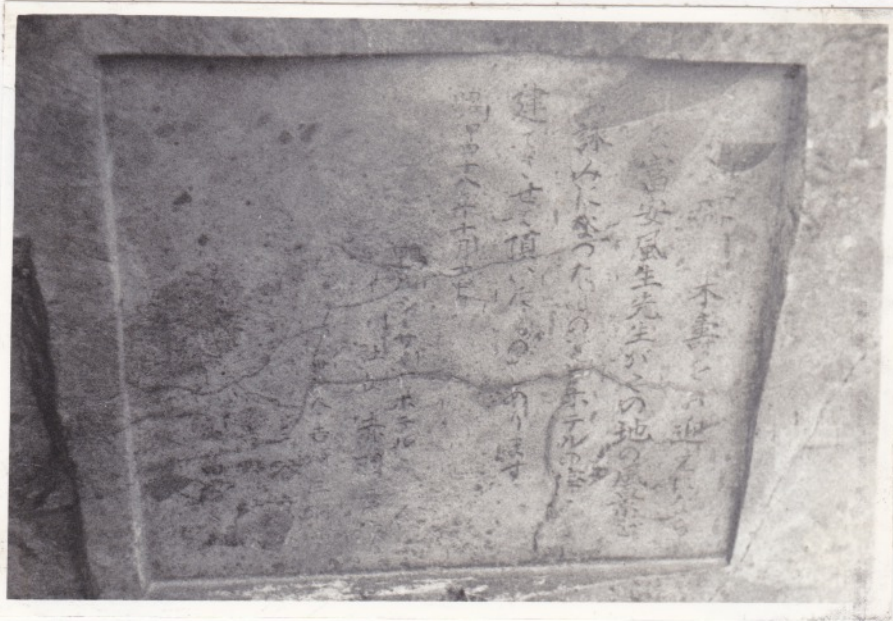
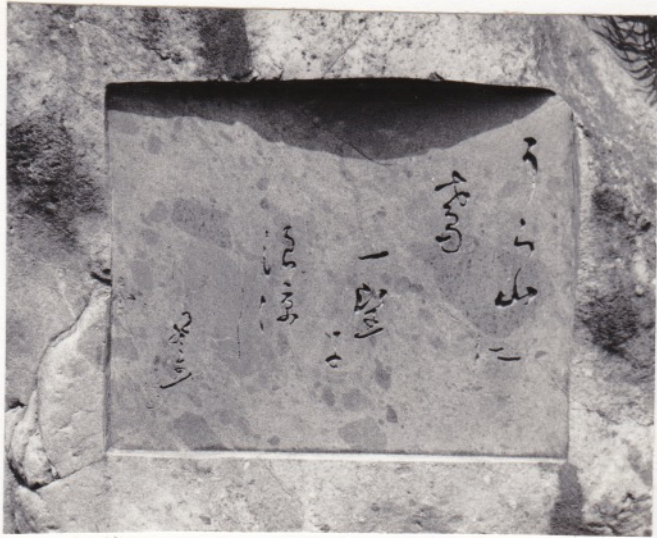
つくし君 春 掛 け と し て 歌 切 の し ゃ れ た 幅

新 居

風 生

碑陰 昭和二十五年於初句会席之御作

昭和五十二年三月建 つくし



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市太海浜園地 仁右衛門島内

初渚

ふみて

齡を

愛し

けり

九十四叟

風生

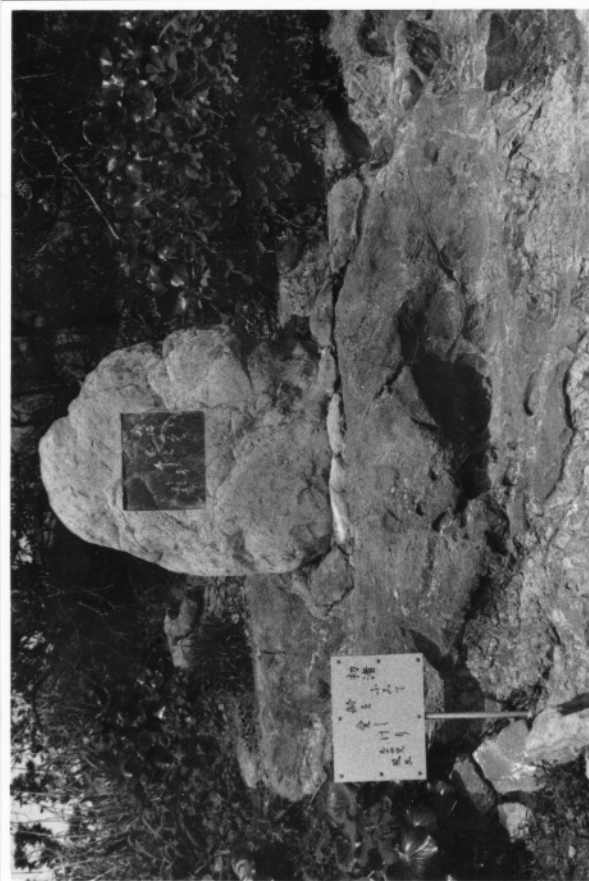
碑陰

俳誌「若葉」主宰日本芸術院会
員富安風生先生には二十数年来
幾度もこの島に御清遊下され齡
九十四歳の御長壽を祝福し併せ
て若葉誌創刊五十周年を記念し
て外房若葉会の協賛のもとに建
立させて頂いたものです

昭和五十二年九月吉日

仁右衛門島主平野仁右衛門

小畑つくし書



富安風生句碑

所在地 千葉県鴨川市太海浜 445 仁右衛門島 内

初渚

ふみて

齢を

愛し

けり

九十四叟

風生

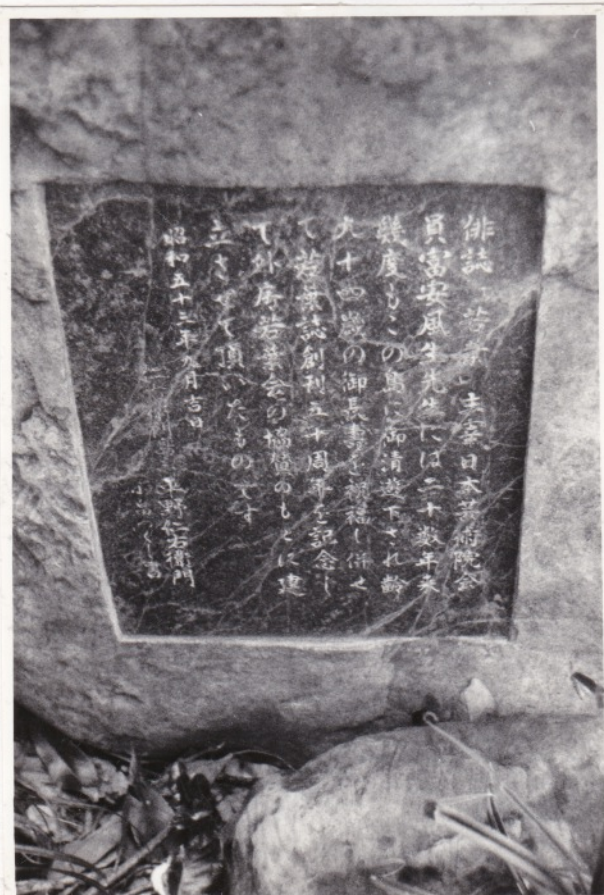
碑陰

俳誌「若葉」主宰日本芸術院会
員富安風生先生には二十数年来
幾度もこの島に御清遊下され齡
九十四歳の御長壽を祝福し併せ
て若葉誌創刊五十周年を記念し
て外房若葉会の協賛のもとに建
立させて頂いたものです

昭和五十三年九月吉日

仁右衛門島主平野仁右衛門

小島つくし書



富安風生句碑

所在地 千葉県勝浦市川津 勝浦灯台近く

風 生

鶯 や

礁へ落とす

萱の徑

碑 陰

建立

昭和三十五年四月二十四日

勝浦市青年団

所在地 千葉県勝浦市植野五三 吉野酒造（腰古井）庭内

古風なる

洋 間 を

もちて

館 涼 し

風 生

碑 陰

古風なる洋間をもちて館涼し

昭和二十一年七月初めて

富安風生先生を御迎えして

御教示を賜ったその時の

御作品の一句を

御令室の御承認を得て茲に

句碑を建立す

昭和五十九年四月吉日 杜康



富安風生句碑

所在地 千葉県勝浦市川津 勝浦灯台近く

風 生

鶯 や

礁 へ 落 と す

萱 の 徑



碑陰 建立

昭和三十五年四月二十四日

勝 浦 市 青 年 団

所在地 千葉県勝浦市植野 571 吉野酒造(腰古井)庭内

古 風 な る

洋 間 を

も ち て

館 涼 し

風 生

碑陰

古風なる洋間をもちて館涼し

昭和二十一年七月初めて

富安風生先生を御迎えして

御教示を賜ったその時の

御作品の一句を

御令室の御承認を得て茲に

句碑を建立す

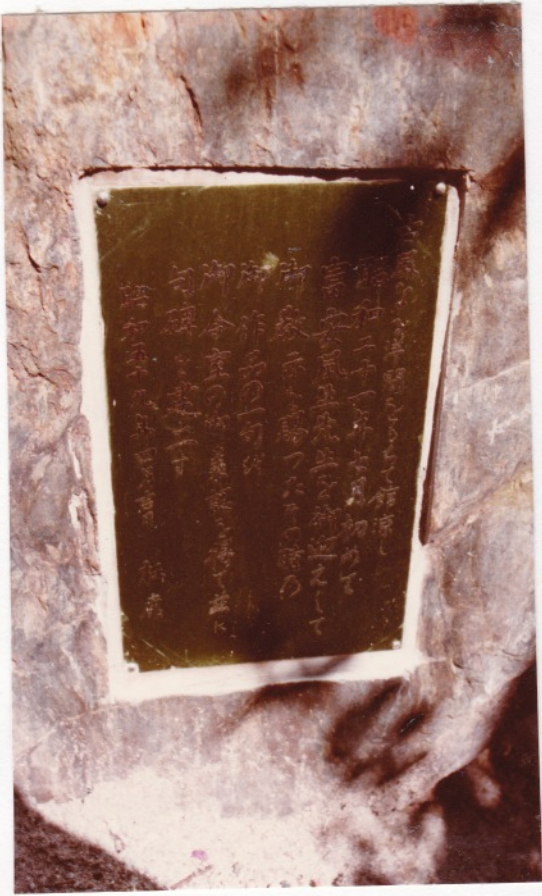
昭和五十九年四月吉日 杜康



羊間亭

丁さき





古園子洋間王持館



富安風生句碑

所在地 東京都新宿区下落合四八二 薬王院境内

中 空 に

日のと、

まれる

牡丹

かな

九十叟

風 生

碑陰

若葉五十周年記念

富安風生門下一同建之

昭和五十二年五月十三日





富安風生句碑

所在地 東京都新宿区下落合 4-8-2 薬王院境内

中 空 に
日 の と っ

ま れ る

牡 丹

か な

九十叟

風 生

碑陰

若葉五十周年記念

富安風生門下一同建之

昭和五十三年五月十三日

所在地 東京都東村山市萩山町 小平霊園 41 区 1 側 9 番 富安家墓域

風 生

走 馬 燈

へ だ て

な け れ ば

話 な し

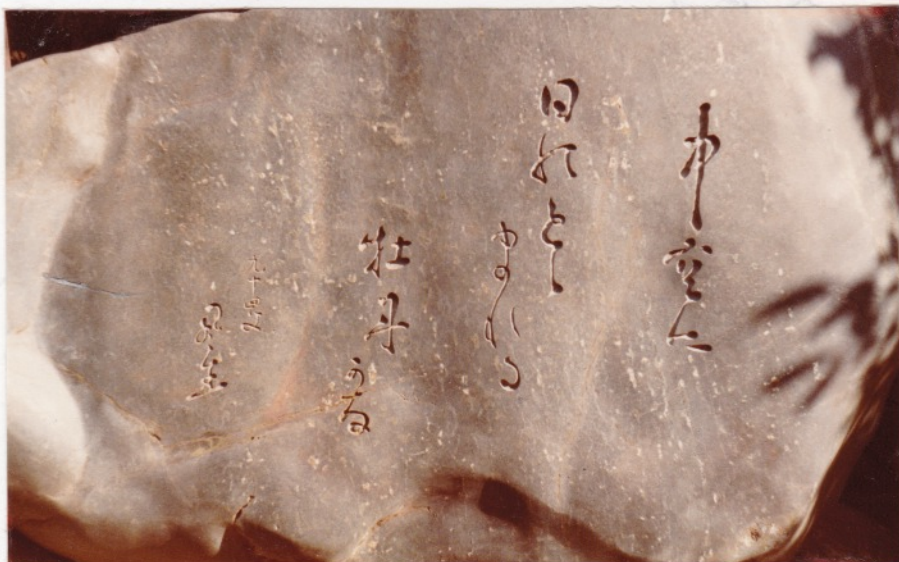
(この左に次の墓誌が書かれている)

墓誌 (縦書き) (略)

富 安 家

(横書き)

裏面 文字なし



富安風生墓及び句碑

所在地 東京都東村山市萩山町 小平霊園三区側九富安家墓域

走馬燈

風生

碑陰

文字なし

へだて
なければ

話なし

(お墓)

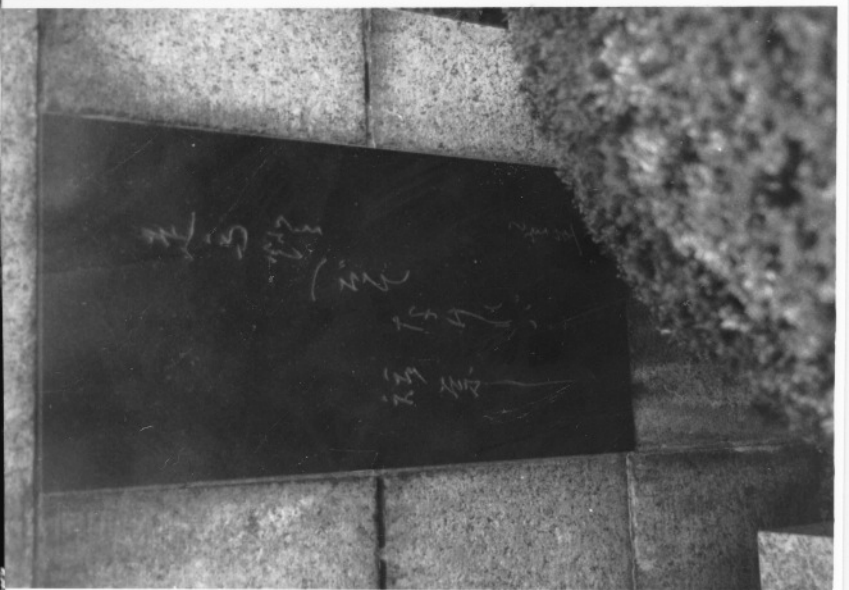
富安家

墓誌

(略)



五月十六日 東京に生まれ 風生に嫁す 跡見高女卒業
享年九十三歳 墓は小平霊園の風生と同じである



富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村山中二 諏訪神社境内

女とは

母とは

安産

まつり

かな

風生

碑陰

昭和四十八年九月吉日

諏訪明神
氏子中

所在地 山梨県南都留郡山中湖村平野三 寿徳寺境内

赤富士に

露

湧花

たる

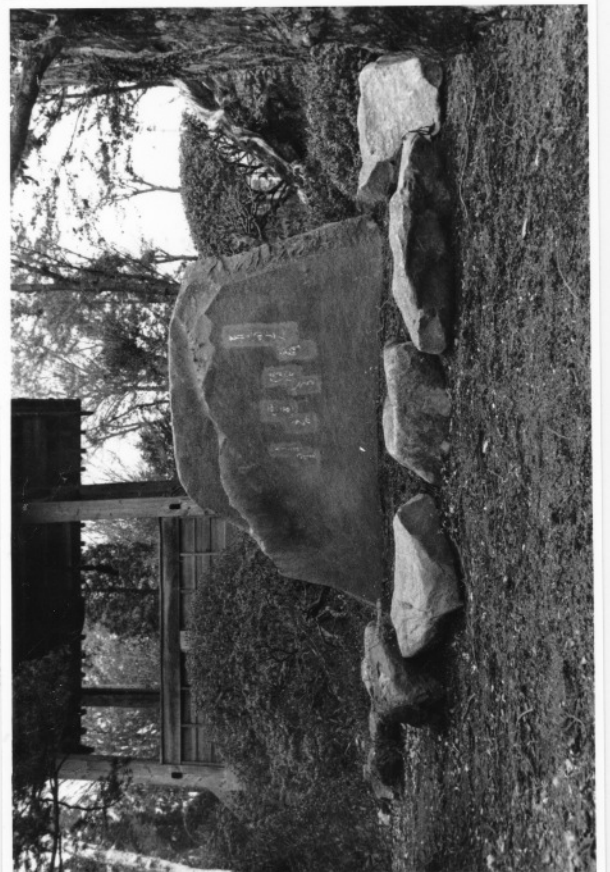
四邊

かな

碑陰

昭和五十二年八月吉日

高村卓治建之



富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村山中 11 諏訪神社境内

女 と は

母 と は

安 産

ま つ り

碑陰

か な

昭和四十八年九月吉日

風 生

諏訪明神

氏子中

所在地 山梨県南都留郡山中湖村平野 147 寿福寺境内

赤 富 士 に

露

滂 沱

た る

四 邊

か な

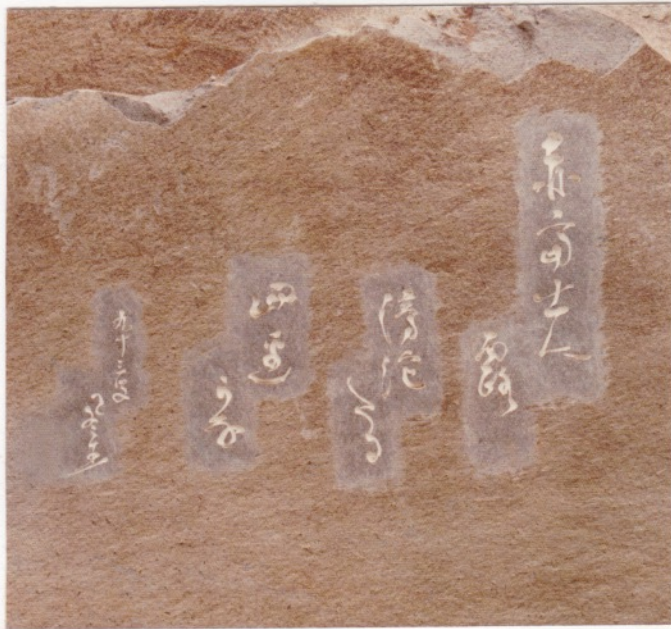
九十三叟

碑陰

風 生

昭和五十二年八月吉日

高村卓治建之



新書

大

盤四

式収

更三十式

画

富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村平野五ノ六 〔ホノノ撫岳荘〕裏山

風 生

湖うかび
すゝきに
沈む
荘の
屋根

碑陰

昭和三十五年五月八日建之

後援 撫岳荘
岳麓若葉会

所在地 山梨県南都留郡山中湖村旭ヶ丘五ノ六一 名譽村「山中寮」隣

露 涼 し

朝富士の皚

豪放に

風 生

碑陰

昭和二十二年八月十六日

新蕎麦会建之



富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村平野 508 「ホテル撫岳荘」裏山

風 生

湖 う か び

す ゝ き に

沈 む

荘 の

屋 根

碑陰

昭和三十五年五月八日建之

撫 岳 荘

後援 岳麓若葉会

所在地 山梨県南都留郡山中湖村旭ヶ丘 506-1 名古屋銀行「山中寮」庭内

露 涼 し

朝 富 士 の 縞

豪 放 に

風 生

碑陰

昭和三十二年八月十六日

新 蕎 麦 会 建 之



富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村平野三毛 「かじや荘」前庭

馬に敷く

碑陰

褥草

馬に敷く褥草にも萩枯梗

萩枯梗

昭和卅年八月廿五日 当荘に一泊さ
れた富安風生先生が当時の朝草
刈風景を詠まれた御作
先生満才の昭和卅年之を建つ
門かじや荘主 天野一雄

九十叟

風生

所在地 山梨県南都留郡山中湖村山中三毛一六一 「ホテル富士」中庭

庭として

碑陰

花野を

昭和四十五年九月五日

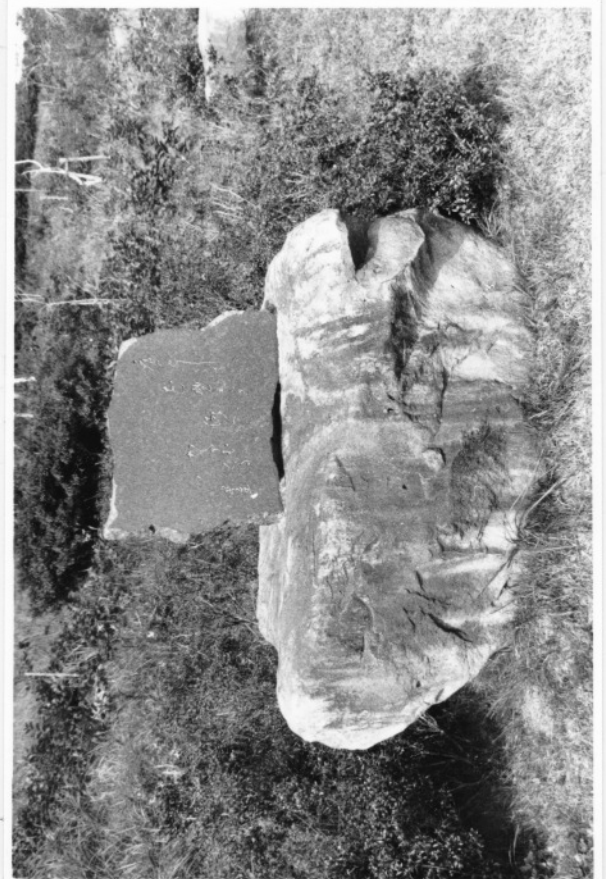
湖へ

之を建つ
富士急行株式会社
岳麓若葉会

かたむ

くる

風生



富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村平野 157 「かじや荘」前庭

馬に敷く

褥草

にも

萩桔梗

九十叟

碑陰

風生

馬に敷く^{しとねぐさ}褥草にも萩桔梗

昭和廿二年八月廿五日 当荘に一泊さ

れた富安風生先生が当時の朝草

刈風景を詠まれた御作

先生満九十才の昭和五十年之を建つ

門 生 渡辺誓不

かじや荘主 天野一雄

所在地 山梨県南都留郡山中湖村山中 1360-82 「ホテルマウント富士」中庭

庭として

碑陰

花野を

昭和四十五年九月九日

湖へ

之を建つ

かたむ

富士急行株式会社

くる

岳麓若葉会

風生



本栖湖
近くの家







ホテルマウント富士
←



風生句碑のところより見た山中湖
←



ホテルより見た富士山
←(かすかに見える)

富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村字出口道下 富安風生先生句碑

安波／＼と

富士

容あり

炎天下

九十雙

風生

碑陰

昭和五十五年三月二十三日

富安風生先生句碑 富安風生先生句碑

副碑

あはあはと

富士容あり

炎天下

九十雙

風生

富安風生先生 明治十八年
愛知県生 本名謙次 通信
次官 電波監理委員会委員
長等歴任 俳句を高浜虚子
に学ぶ 日本芸術院会員
昭和五十四年歿

昭和五十五年三月二十三日

富安風生先生句碑 富安風生先生句碑



富安風生句碑

所在地 山梨県南都留郡山中湖村字出口道下 簡易保険保養センター前庭

安波 〃 〃 と

富士

容 あり

炎 天 下

九十四叟

風 生

碑陰

昭和五十五年三月二十三日

簡易保険 郵便年金 福祉事業団建之

副碑

あはあはと

富士 ^{かたち}容 あり

炎 天 下

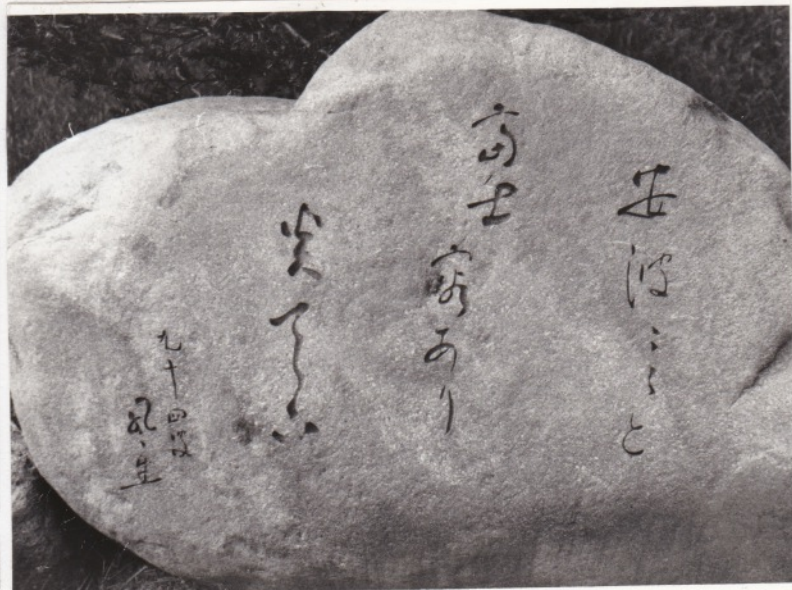
九十四叟

風 生

富安風生先生 明治十八年
愛知県生 本名謙次 逋信
次官 電波監理委員会委員
長等歴任 俳句を高浜虚子
に学ぶ 日本芸術院会員
昭和五十四年歿

昭和五十五年三月二十三日

簡易保険 郵便年金 福祉事業団建之



富安風生句碑

所在地 山梨県富士吉田市大明見三三 柏木鉄雄氏宅前庭

大蛇工に垂言解富田士

風 生

碑陰

文字なし

たゞあるのみなり

所在地 山梨県富士吉田市上吉田七三 西念寺境内

春 行 く と

碑陰

文字なし

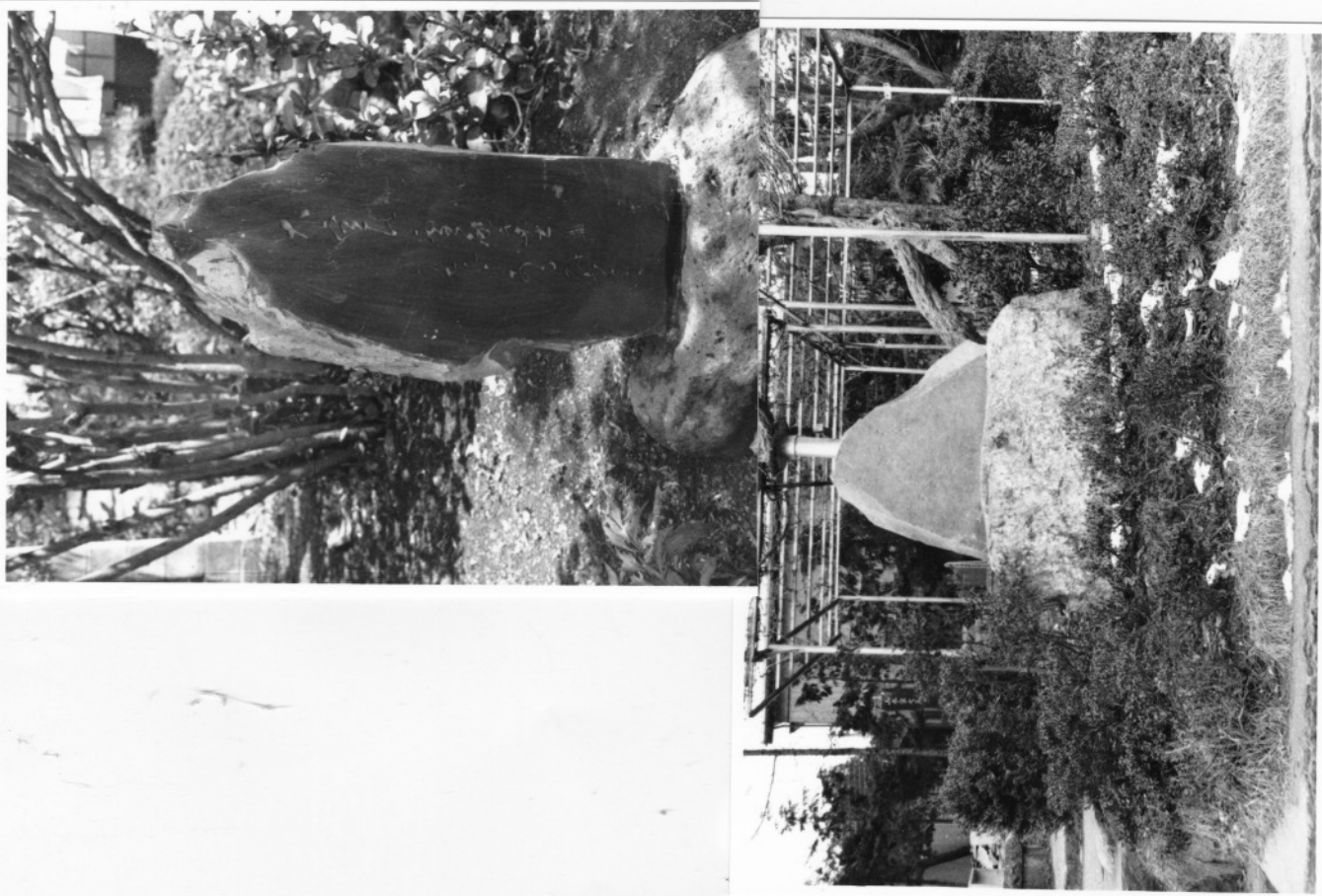
藤 の

蕾 の

立ち

そろふ

風 生



富安風生句碑

所在地 山梨県富士吉田市大明見 282 柏木鉄雄氏宅前庭

風 生

大 空 に 雪 解 富 士

たゞあるのみなり



碑陰

文字なし

所在地 山梨県富士吉田市上吉田 723 西念寺境内

春 行 く と

藤 の

蕾 の

立 ち

そ ろ ふ

風 生

碑陰

文字なし